

社会保障の仕組み解説 高知県立大・田中教授が新著

高知県立大学社会学部福祉学部の田中きよむ教授の新著「少子高齢社会の社会保障・地域福祉論」が刊行された。年金、医療、障害者福祉など幅広い社会保障制度の仕組みを解説し、今後進むべき方向性を考察している。

少子高齢化が進む社会状況を踏まえ、児童福祉や生活保護など関連する各制度の基本構造を詳しく紹介。最新動向を盛り込みながら、現在抱える課題や、制度をどう安定的に持続させていくか私論も添えている。

第8章「地域福祉システムの事例分析」では、行政主体で策定される地域福祉計画に注目。住民参加で計画づくりが進められてきた佐川町、日高村、四万十町の先進事例を取り上げ、独居高齢者への支援、災害への備え、住人のつながり強化などさまざまな地域課題に住民が主体的に関わる重要性を指摘している。

田中教授は「社会保障制度は子どもから高齢者まで皆の生活に深く関わっている。各制度の基本を押さえ、今後のあり方を議論するための参考になれば」と話している。中央法規刊、3520円。

田中教授は1962年滋賀県大津市生まれ。滋賀大学大学院修了後、京都大学大学院経済学研究科で学び、高知大学教授を経て2006年から現職。（松田さやか）

